

新春 とちぎで暮らそう ~Uターン~

知事対談

とちぎで暮らす魅力

知事 新年あけましておめでとうございます。本日のゲストをご紹介します。ロックシンガーのダイヤモンド☆ユカイさん、タレントの小池祥絵さんです。

二人 よろしくお願ひします。

知事 さて、今ではとちぎ未来大使としてご活躍いただいているお二人ですが、印象に残っているとちぎの魅力など、ぜひ教えていただけたらと思います。



栃木県知事 福田 富一

ユカイ 一番印象に残っているのは「しもつかれ」ですね。

小池 あら、まあ。

ユカイ 妻が小山市出身で、ある時お母さんから受け継いだしもつかれを作ってくれたんです。最初は「何だろうこれ」って思いましたが、食べれば食べるほどやみつきになりまして。もっといろんな人に教えてあげたいと思いましたね。

知事 まさか、お正月早々、東京都ご出身のユカイさんからしもつかれの話の聞けるとは思いませんでした。

ところで、ユカイさんが栃木県へ移住しようと考えたきっかけは何だったのですか？

ユカイ 妻と東京で暮らしている中、男性不妊で苦勞しながらも長女を授けられたので、都会の喧騒から抜け出してもっと自然がある環境で子育てをしたいと思いました。そんな時偶然、佐野市を通り掛かり「ここはいいな!」と感じたんです。

知事 住み心地はいかがでした？

ユカイ まず、東京と違ってシンプルに生活できる。東京での仕事にも一時間ちょっとで行けますし、それでいて少し足を伸ばせば、山とか川とか自然に囲まれてもいる。何より空がでっかい！東京では、あれだけの空は見られませんか。

知事 地元に住んでいると、そういうことになかなか気付かせませんから。とても良いお話を聞かせてもらえました。

小池さんは東京で活躍されていましたが、今は県内で活躍されています。戻ってきて一番良かったことは何ですか？

小池 やっぱり、親の近くにいられることが一番ですね。親に何かあった時、すぐ駆け寄れる距離にいたいと昔から思っていたので、安心感があります。

知事 今、親御さんというお話が出ましたが、お二人ともお子さんを持つ親でもあります。とちぎの子育て環境については、どんなふうにお感じですか？

ユカイ 子育てって初めての経験で、どうしたらいいかわからないんですよ。特に子どもって、よく病気になるじゃないですか。でも、とちぎは医療機関が充実していて、皆さん連帯というか、協力して治療に当たってくれるんです。子育てにはもってこいの場所でしたね。

小池 私は結婚して宇都宮に住んでいますが、宇都宮って、大人も子どもも楽しめるイベントがとて多いんです。それに、夏は川で遊べたり、冬は雪遊びもできたり、娘が温泉好きなので、一緒に県内各地の温泉巡りをしたりもしています。

知事 東京にはない生活スタイルが、とちぎにはあると。

小池 はい。とちぎでしかできない、とちぎならではの子育てが楽しめています。

とちぎへのUターンを増やすために

知事 先ほどからお二人のお話を聞いて、栃木県は東京の通勤圏でありながら、自然が豊かで、子育てもしやすく、幅広い世代にとって住みやすい県であることが再発見できました。ユカイさんの「空が広い」というのも印象的です。

県では、お二人のような働き盛りの世代をはじめ、より多くの方にとちぎへUターンしていただきたいと考えています。ちなみに、UターンのUは、栃木県出身の人が進学などで県外に出た後、再び戻ってくるUターン。Iは、県外出身の方が栃木県に移り住む「一直線」のIターン。Jは、県外出身の方が東京などに住んだ後、栃木県に移住するJターンです。

ユカイ ということは、俺はIターンで。

小池 私はUターンですね。

知事 そうですね。栃木県ではその促進のため、東京のJR有楽町駅前に「とちぎ暮らし・しごと支援センター」を設置し、暮らしと仕事の相談にワンストップできめ細やかに対応しています。また、昨年10月には、県内全市町等と協力して、移住に役立つ相談ブースの設置や、先輩移住者のトークライブなど、盛りだくさんの企画を用意した「オールとちぎ暮らしの展覧会」も開催し、とちぎへの移住に興味・関心のある多くの方にきて場いただきました。このような取り組みにより、とちぎでの暮らしを具体的にイメージしてもらえよう、引き続き情報発信をしていきたいと思っています。



県内市町がそれぞれの地域の魅力をPRした「オールとちぎ暮らしの展覧会」

ユカイ 俺が移住する時にも、そういうイベントがあったら良かったなあ。うらやましいな。



ダイヤモンド☆ユカイさん

ロックバンド「レッドウォーリアーズ」のボーカルとしてデビューし、現在も音楽活動を中心に幅広く活躍中。長女の誕生を機に佐野市へ移住

知事 とちぎを選んで、Uターンする方がいる一方で、特に20代の若者の東京圏への流出が多いという課題もあります。

ユカイ とちぎテレビの番組などで県内を回っていますが、Uターンしてきて地域を活性化しようと頑張っている若者も多いし、そこまで流出している気はしないですけどね。

知事 おっしゃるとおり、県内で頑張っている若者もたくさんいます。しかし、東京に進学して、そのまま東京圏の会社に就職してしまう若者も多いのです。

小池 私はとちぎが恋しくて、とちぎの魅力を出して戻ってきましたけど、都内で就職を決めた友人は多かったですね。東京はキラキラして見えるじゃないですか。周りに流されて、そのまま就職してしまう人も多かったように思えます。

ユカイ 外から見ると、栃木県はとて素敵な場所なんですけどね。

知事 ふるさとの良さには、後から気付くことが多いのですが、若い時代は都会の華やかさに憧れてしまって、そのまま戻らないことが多い気がします。

小池 あと、東京に住んでいた時は、とちぎの情報がなかなか入ってきませんでしたね。地元に戻るか東京に残るか考えたときに、情報が少ないと、やっぱり今の東京の生活を優先させてしまうのかなって思います。

知事 そうなんです。それはすなわち、栃木県がPR下手ということなんです。そこで県では、暮らしや就職に関するさまざまな情報をアプリやイベント等で積極的に発信しています。

ユカイ 知事もイベントに参加したんですよね、どうでした？



東京圏に住む栃木県出身の若者が交流するイベント「Jimoto TOCHIGI」に参加した知事

知事 若者たちの議論の場に加わって参りました。「とちぎが好きだ、戻って暮らしたい」という雰囲気が伝わってきて、頼もしく思いました。参加者が将来、地元に戻ること、これからのとちぎを活性化してくれることに期待しましたね。

ユカイ 都内でそういうイベントがあるのは、いいことだと思います。地元を離れていても、地元の人とつながっていることで、新たな発見が生まれますし。

小池 アプリがあるっていうのもうらやましいです。それに、私も東京では一人不安だったので、とちぎ出身者のコミュニティがあると安心感があって、うれしいと思います。今は、SNSが普及していますので、ますますの広がりが期待できそうですね。

女性も男性も働きやすいとちぎ

知事 実は栃木県に戻ってこない若者は、どちらかというと女性の方が多いのです。そのため、今年度新たに、20代から30代の女性を対象としたUターンのイベントも行いました。また、多くの女性に戻ってきてもらうためには、女性が活躍できる環境づくりが重要です。そこで県では、さまざまな分野の企業や団体などと連携して「とちぎ女性活躍応援団」を設置し、女性の活躍推進や、働き方改革などに積極的に取り組む企業を「男女生き生き企業」として認定するなど、オールとちぎで女性の活躍に向けた取り組みを進めています。

小池 そうなんです。今も私の周りには、第一線で活躍する女性がたくさんいますけど、ますます女性が活躍しやすくなるということで、私も一層、気を引き締めて仕事しなきゃと思います。



小池 祥絵さん

日光市出身。タレントとして東京を拠点にしていたが、現在は宇都宮市を拠点に活躍中。「栃木県子ども・子育て審議会」の委員も務める

知事 女性が働きやすい環境について、ユカイさんはどんなふうにお感じですか？

ユカイ そうですね。やっぱり、女性が働きやすい環境が、男性にとっても働きやすいですからね。とちぎにそういった企業が増えるというのは、とてもいいことだと思います。

知事 女性が働きやすい環境は、男性も働きやすい。これ、いい言葉ですね。そういう職場環境づくりを、県としても積極的に進めて参ります。「とちぎに行ったら、もっと幸せになれるかもしれない」と、女性の皆さんに思っただけのような